

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

平成27年度研修講座を終えて

今年も、松阪市子ども支援研究センターが主催する研修講座を、無事すべて終えることができました。ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

講座運営の担当やサポートとして、多くの講座に参加させていただきましたが、どの講座も、参加いただく先生方が大変熱心であったことが印象に残っています。

少々乱暴な言い方をしてしまいますと、教師は、教えることが仕事であり、そのために、どう教えるか、どのように伝えるかについて考えながら取り組んでいただいています。しかし、もう少し考えてみますと、教えるためには、「教え方」だけを知っていればよいのではなく、何を教えるか、というその「教える中身・内容」をまず持っていなければ、いくら教え方を知っていても意味がありません。それに加えて、教える中身や内容は、社会の変化や時の流れによって変わっていき、修正が加えられたりします。さらには、近年の「知識基盤社会」と呼ばれる状況に置いては、学ぶ内容、知識だけでなく、それらの知識を身につけていく「学び方」や、生涯学習を見据えた「学ぶことへの意欲」も、子どもたちが身につけるべき力として重要になってきています。

以前のたよりの巻頭言とかぶってしまいますが、そうした社会の変容に対応していく、という点から考えても、教師は教えることの専門家であると同時に、学ぶことについても専門家である必要があると思います。今年度、松阪市教育研究会教育講演会においてご講演いただいた教育実践研究家 菊池省三先生は、ご自身の体験から「知恵を身につけるためには、人に会い、本を読め」という言葉で、教師が学ぶことの重要性について語っていただきました。教師自身が学ぶことに喜びを感じ、学びの大切さ、喜びを、身を持って子どもたちに伝えていく、そういう姿勢が、子どもたちをさらに深い学習活動へと誘うのだと思います。

それぞれの講座で、熱心に目を輝かせて研修に取り組まれる先生方に、そのような「学びの専門家」としてのお姿を見せていただき、改めて、教師が学ぶことについて考えるきっかけとさせていただきます。

所員一同、運営、進行として関わらせていただきましたが、至らない点が多々あったのではないかと思います。どうぞご容赦いただき、来年も是非、様々な講座で先生方ご自身の学びを深めていただければ、と思います。よろしく願いいたします。

(楠堂 晶久)

研修講座報告

A-9 外国語活動/外国語
(6月1日)

「これからの小学校外国語教育に向けて、小・中学校で今取り組むべきこと」

講師 直山 木綿子 先生



・小学校での外国語の学習が、今後ますます重要になってくる中、外国語の学びはコミュニケーション力の育成である、という柱でのお話をいただき、前向きな気持ちになると同時に、たくさんのご示唆をいただきました。

C-3 初任者研修
(6月2日)

「フィールドワーク～郷土の偉人ゆかりの地を訪ねる～」

講師 村田 匡 先生 杉山 亜有美 先生



・お二人の講師の方の案内で、フィールドワークを行いました。文化財センター、旧長谷川邸、原田二郎旧宅、本居宣長記念館、松坂城址などを訪ね、松阪の郷土の偉人について学びました。

B-18 乳幼児教育 I
(6月13日)

「これからの松阪市の保育実践について」

講師 柴崎 正行 先生



・保育者として知っておかなければいけないこと、保育者として変わることはない実践があること、そして、その実践がどう小中につながっていくか等、事例を紹介していただきながら具体的にお教えいただきました。

A-1 国語
(6月15日)

「単元のねらいをつかみ、より主体的に読んで、伝え、力を高める授業 - 戦争中に生きた人の姿を読んで、しょうかいしよう『一つの花』 -」

講師 木村 祐子 先生



・授業者としての心構えや授業づくりでしていかなければならないことなどを、考え直したり、新たに気づかせていただいたりすることができました。何より、学び続けることの大切さとその魅力について、改めて気づかせていただきました。

B-19 乳幼児教育Ⅱ
(7月4日)



「遊び—その子らしさの発達をつくりだす土台」

講師 河崎 道夫 先生

・保育における遊びの大切さをさまざまな事例を紹介しながら教えていただきました。夢中になったり、震えるような経験をしたりすることの大切さとともに、子どもたちの大事な時間とともに生活していることを自覚すること等、保育の重要性を改めて実感しました。

A-3 算数
(7月7日)



「子どもの言葉でつくる算数授業づくり

—みんなで理解し、考える力をつけることを目指して

—思考力・表現力を高める算数授業」

講師 盛山 隆雄 先生

・前半は、盛山先生に幸小学校の6年2組で「場合の数」の師範授業をしていただきました。後半の講義では、受講者の声をもとに、授業づくりにおいて大切な問題提示のしかたや、発問のしかたなどについて教えていただきました。

B-12 読書活動
(7月22日)



「心の扉を開く読書」

講師 増田 喜昭 先生

・たくさんの素敵な本を紹介とともに、本を通じた大切な人とのつながりをお聞かせいただきました。「心の扉を開けるのは子ども自身。その手助けをしなくてはいけない。」子どもとかかわるうえで大切にしなければならないことをご教授いただきました。

A-4 理科
(7月23日)



「授業に役立つ小学校理科の実験」

講師 平賀 伸夫 先生

・グループで実際に実験を行いながら、活動の進め方や実験材料の選び方などについて教えていただきました。「オアシスを用いた流れる水のはたらきの実験」等、子どもたちの身近な生活とかかわる実験について学ぶことができました。

B-15 特別支援教育 I 「崩れない学級づくりとは～特別支援教育の視点から～」
(7月24日)

講師 松久 眞実 先生



・学級づくりにおいて大切なことを松久先生ご自身の実践をもとに教えていただきました。特別支援教育の視点から学級づくりをしていく方法を具体的にいくつかも教えていただきました。

B-6 児童生徒理解
(7月27日)

「かかわりの難しい児童生徒の理解と支援について
～不登校児童生徒から見えること」
講師 阿久澤 栄 先生



・不登校児童生徒の早期のかかわり、児童生徒の特徴に応じたコミュニケーションのとり方等、具体的な事例から、支援の必要な子どもの理解について教えていただきました。教室にいる子どもと重ね合わせながら、様々な課題について整理する時間となりました。

B-2 授業力向上（学力向上・授業づくり）「言語活動で楽しく力のつく授業づくり」
(7月28日)

講師 宗我部 義則 先生



・目的意識をはっきり持って、言語活動に取り組むことの大切さについて教えていただきました。また、言語活動を取り入れた授業づくりについて、グループワークを交えながら、楽しくご指導いただきました。

B-5 外国人児童生徒教育 「外国人児童生徒の教科指導につながる日本語指導について」
(7月28日)

講師 大藏 守久 先生



・子どもの実態に合わせた指導や日本語指導と教科指導を併用する指導を具体的に演習も取り入れながら指導いただきました。多くの実践から創り出された日本語指導や教科指導は、すぐにでも実践に役立つものでした。

B-14 郷土教育Ⅰ
(7月29日)



「蒲生氏郷の生涯」

講師 門 暉代司 先生

・資料や写真を示しながら、氏郷の街づくり、商業振興、文化伝承など、今に伝わる氏郷の功績についてお話しいただきました。実際に蒲生氏郷の教材冊子を使って、氏郷の生き方、行ったことを、どのように子どもたちに学ばせるのかをご指導いただきました。

A-8 道徳
(7月30日)



「子どもの心を育てる道徳の授業づくり」

講師 鈴木 健二 先生

・道徳の教材を紹介いただきながら、授業づくりのための実践的な技法を教えてくださいました。また、道徳の教材づくりをする際、身近にある素材がもつ教材としての価値に気づき、教材化するポイントについても教えていただきました。

B-8 生徒指導 (Q-U)
(7月31日)



「Q-U を活用した学級づくりの手立て」

講師 粕谷 貴志 先生

・質問紙の中の具体的な問いかけの中から、集団の把握、集団づくりについて事例を交えながら指導いただきました。早く学級の課題に到達し、じっくりと子どもと向き合うことの大切さに改めて気づかされました。

B-20 乳幼児教育Ⅲ
(8月1日)



「精神的不安定さを抱える保護者の理解と対応」

講師 土田 幸子 先生

・精神的不安定さを持つ養育者の症状や、その子どもの置かれている状況、特徴、関わりの留意点などについて、丁寧に教えていただきました。子どもと大人の絆を深めるプログラム「CARE」を通して、子どもたちへの関わりについて改めて学ぶ機会となりました。

B-13 危機管理
(8月3日)



「ワークショップ型情報モラル教育校内研修会と保護者参加型研究会について」

講師 長谷川 元洋 先生

・校内研修のあり方や生徒への指導の進め方について、ワークショップ形式でご指導いただきました。情報モラルの課題やセキュリティについての講義だけでなく、それを教員、保護者、児童生徒にどのように伝えていくのかを考える機会にもなりました。

B-16 特別支援教育Ⅱ
(8月3日)



「神経発達症と子供の心の理解にもとづく対応」

講師 十一 元三 先生 義村 さや香 先生

・十一先生からは、さまざまな神経発達症の症状やその特徴等について、義村先生からは、さまざまな症例をもとに、子どもの心の理解に基づく対応についてご教示をいただきました。

B-17 特別支援教育Ⅲ
(8月4日)



「もう一つの支援—家族を視る・家庭を読む」

講師 志村 浩二 先生

・家族とは、一般的に、協力者（支援者）であるが、ときに障害者であったり、援助対象者であったりし、状況や利害関係で移り変わるといふ実態について、具体的な例を挙げながら、支援の必要な子どもの理解や、家族アセスメント等、教えていただきました。

B-9 健康教育
(8月5日)



「薬物乱用防止教室について」

講師 村林 正樹 先生

薬物乱用の実態を始め、子どもたちへの講話や、指導内容等について具体的にお話をいただきました。単に薬物の危険性についてだけでなく、子どもたちにどのような話をしているのか、という点で、教育現場の指導にもつながる内容でした。

B-10 学級づくりⅠ
(8月7日)

「子どもと先生が心底笑えるクラスづくり」

講師 金 大竜 先生



・子どもと子どもをつないでいくために、たくさんの遊びを通してぶつかり、関係を築いていくこと、安心できるつながりや教室のムードの作り方を教えていただきました。これまでの指導や子どもたちとの関係を考え、接し方について考える研修になりました。

B-3 授業力向上（学力向上・授業づくり）
(8月17日)

「当たり前の徹底、ふくいの教育」

講師 多田 敏明 先生



・「当たり前」のことをきちんと、ていねいに取り組む「ふくいの教育」の姿を見せていただきました。単に「やり方」「方法」というだけでなく、そこにある思いや意義は何か、それを学校で子どもたち共有していくには、という点の重要性を改めて学びました。

A-7 体育/保健体育
(8月18日)

「協同的な学びを育む表現運動・ダンスの授業づくり」

講師 柳瀬 慶子 先生



・「仲間の動きのまねをし、表現する人数を増やしていくことで自己が開放されていく。」「様々なグループでの活動を効果的に繰り返すことで表現運動のおもしろさがわかってくる。」など、表現運動の授業について、実際にペアやグループで表現しながら学びました。

B-1 授業力向上（学力向上・授業づくり）
(8月18日)

「心が動く授業「子どもを伸ばす話芸、手法」

講師 中村 武弘 先生



・「教科の学習内容について、どう主体的に考えさせるのか」「そのために、教師が子どもにどのように聴くのか、問い返すのか」そのための発問や思考を深める話芸や手法を様々な教科や教材の中で活用することを教えていただきました。

A-5 音楽
(8月20日)



「〔共通事項〕が見える 子どもがときめく音楽授業づくりの実際
～からだを軸にして～ ー第2弾ー」
講師 高倉 弘光 先生

・学習指導要領における「表現」と「鑑賞」の「共通事項」に改めて着目され、第2弾として、実際の表現活動を通してご講義をいただきました。本当の意味での音楽の楽しさについて考える機会となりました。

B-7 生徒指導（不登校対応）
(8月21日)



「不登校児童生徒への支援について」

講師 森川 泉 先生

・前半は、不登校児童生徒のためにできる支援のあり方について、ご講義いただきました。後半のクエスチョンタイムでは、受講者が日頃悩んでいることや質問に対して丁寧で適確な指導、助言をしていただきました。

B-11 学級づくりⅡ
(8月24日)



「『ユーモア詩の取り組み』と『学級崩壊からの脱却のためのワークショップ』～子どもの不快感情を共有することの意味～」
講師 増田 修治 先生

・子どもの悩みや苦しみに共感することなど、子どもたちとの関係づくりについて学びました。また、具体的事案を基に、「学級をどのように立て直していくか」「どのように分析し、どのような手立てをとるか」など、学級づくりを考える貴重な時間となりました。

B-4 情報教育
(8月25日)



「1人1台のタブレット端末を活用した協働学習の授業デザイン」
講師 豊田 多希子 先生 廣瀬 有一 先生
湊川 祐也 先生 楠本 誠 先生

・日々取り組まれている授業実践から、タブレット端末を使った授業づくりについて、効果的な場面や教材、授業展開を示していただきました。多くの受講者が、これまでの自分の指導や授業展開を振り返り、これからの授業づくりについて考える研修になりました。

A-2 社会
(8月25日)



「子どもが本気で学ぶ社会科の授業づくり」

講師 安野 功 先生

・「輪中」「十七条憲法」「参勤交代」「日本国憲法」などの課題を考えることで、多様性、公共性といった社会科の本質的な魅力に触れ、生徒全員が考える授業をするにはどのようにすればいいのかを具体的な授業案を示しながら教えていただきました。

A-6 図画工作/美術
(8月28日)



「図画工作科の授業づくり ～子どもの表現のとらえ方と教師の支援に焦点をあてて～」

講師 竹井 史 先生

・子どもの絵の紹介とともに、発達段階に応じた子どもの表現のとらえ方と教師の支援についてご講義いただいたあと、身近な材料での教材を使って、実技を交えてご指導いただきました。食紅を使った「オリジナルジュース」を使った創造力が働く言語活動も行いました。

B-21 乳幼児教育Ⅳ
(8月29日)



「リズム遊びと集団ゲーム」

講師 鈴木 寿子 先生

・すべての参加者がリズム遊び、集団ゲームを思い切り楽しみながら、笑顔や喜びを共有することができました。人と関わるのが素敵だなあと感じるひとときを作っていただきました。子どもたちにそれらを伝えていく上で、楽しく有意義な学びの時間となりました。